

履歴書

JP1KHY/鈴鹿

JP1KHY のルーツ？

自宅の真空管ラジオを分解してひどくしかられたのは、小学校の頃。遠い所の人の声が聞こえる、話ができる、これは面白い。ラジオ大好き少年が一人誕生した。

小学校 5 年、秋葉原に大金？を握り締めてテスターを買いに行ったことは今でも憶えている。

その後、エンジニアになりたい、無線通信技師になりたい、いろいろに変遷はしたものの、やはりいつも無線につながっていた。

「無線で飯を食う」が願望・・・夢だった。

今までのところ、38 年間、無線関連で飯を食ってきている。

思い[夢]があると通じる、実現するものだという実感を持てるようになった。

技術の方はまだまだが、電気のイロハ(オームの法則?)だけでも何とか食えるという、負け惜しみは言えるようになった。

小学校で・・・

小学校時代、最初に手がけたラジオは御多分に洩れず、鉱石ラジオ。

ゲルマニウムラジオでないことで世代がわかる？

並四ラジオ、0-V-1 短波、と進化して中学に入る頃には2バンド5球スーパーに出世していた。真空管も ST 管から MT 管に進化。

今でもいくつかの真空管の名前がいえるほど記憶に残っている。

トランスレス方式ラジオという、感電が恐ろしいラジオも作った。

6C6,6D6,6WC5,76,42,6ZPI,12F,2A3・・・6BA6,12AX7,6BQ5,・・・きりが無い。

最近、秋葉原を歩くとびっくりするような価格でこうしたタマが売られている。

中学校でアマチュア無線免許というものを知った。一種のブームだったのだろうか。

同級生の父上が JA1CW・、というコールサインでご活躍だった。その同級生が電話級に合格した。最年少とニュースになった。

私も・・・とチャレンジしてあえなく不合格。

「法規があるなんて知らなかった・・・」 アハハ・・・。

それ以来、今のコールサイン免許をもらった 1982 年まで(ウン十年)受験していない。

しかし中学時代には無線機はいろいろ作った。送信機も受信機も。

807 シングル、高一中二、クリスタルコンバータ、なんと懐かしい言葉の響き・・・！

JP1KHY 開局

1982 年にアマチュア無線を電話級で開局した。

その後電信級に昇格？には数年かかった。今でも電信は苦手。

当時は5階建ての団地の1階に住んでいたこともあって、移動運用とモービル運用で

アクティブだった。

50.240MHzでモバイル運用のグループとのお付き合いは今も続いている。
コンテストの度に奥武蔵の山(車でへ行けるところだけ)に上がって徹夜で頑張った。

最高の成績は6&DWN でニューカマー優勝。それ以降は落ちる一方。

自宅で波を出したくて、7, 8 年たった頃に現在の戸建てに転居。

自分でタワーの基礎穴を掘り、ご近所への気兼ねをしつつ、一番低いクランクアップ
タワーを設置。

念願の常置場所開局。しばらくは 21MHz と 50MHz にアクティブだった。

仕事が忙しい時代にもなり、少し飽きもあり？ 90 年代はほとんど QRT 状態となってしま
った。

高周波が苦手な無線屋

無線に憧れてはいたものの、1970 年に就職してもしばらくは無線に近づけないで居
た。

入社してしばらくしてから、ミニコンのハシリ HITAC-10 のプログラムをいじった。

電動タイプライタで紙テープにプログラムを書き込む・・・穴を開ける。

タイプミスやプログラム手直しは紙テープを切った貼ったで、今思い起こせば、気が遠
くなるような仕事であった。

弁当箱のようなコアメモリユニットにも驚かされたものだ。

INTEL から 4 ビットマイコンが発売されたのはその頃だったろうか、i-4004、そして 8 ビ
ット 8008、8080 と、懐かしいマイコンが次々と誕生した。その仕掛けを勉強するための
「トレーニングキット TK-80」も有名になった。

まもなくミニコンはオフコンとなり、一方で組み込みマイコンはバリエーションがどんど
ん増えた。

パソコンの元祖？ BASIC MASTER や MSX でも遊んだ。本当は仕事だったのだが・・・
入社 10 年以上たった頃、HAM の免許を取得して RTTY 通信にはまった頃に使った
コンピュータは MSX であった。

変復調はハードウェアでメッセージの入力と受信表示だけが MSX で、プログラムはベ
ーシックで自作、かなりの編集機能も作れて、楽しめた。

数年前から使わせていただいている MMTTY プログラムの機能を知るにつけ・・・隔世
の感である。

81 年にはめでたく無線機設計を担当することになった・・・が、高周波ではなく無線機
の制御マイコン周りソフト設計が仕事であった。

無線機の周波数設定が水晶方式から、今では当たり前のシンセサイザ方式に変わっ
たことで、シンセサイザ制御のために、マイコン屋が必要になったことが幸いした。

高周波が苦手な無線機設計技術者？ が誕生してしまった。